

2020年 1月 24日

2020年度聖路加国際大学大学院看護学研究科

修士論文(課題研究)

スリング・ラップ・キャリア使用時の
感覚を通じた養育者の認識

Perception of Parents and Caregivers with The Sense
When Using Baby Carriers, Slings and Wraps.

学生番号 18MW013

氏名 中谷礼子

論文要旨

I 目的

スリング・ラップ・キャリアの使用時の感覚を通じた養育者の認識を探索することを目的とする。養育者の認識とは、養育者としての肯定感、安心感、利便性、疲労感、児に対する思い（生理的変化や愛着）を含む。

II 方法

生後1ヶ月から2歳未満の児を育てる養育者を対象に、web アンケートを用いた記述的横断研究である。機縁法にて、女性グループと助産所をリクルートし、有効回答を得られた155人を分析対象とした。スリング・ラップ・キャリアの使用者別の、「使用状況」「使用時期」「使用時間」を調査した。また、「養育者の認識」「各抱っこ補助具の使用経験と講習受講の有無の関係」「各抱っこ補助具の使用経験の有無と就業の有無の関係」「養育者の認識と講習受講の有無の関係」については、 χ^2 検定およびフリードマン検定を用いて、スリング・ラップ・キャリア別に比較を行った。

III 結果

- 1) 調査に協力してくれた養育者の153人(98.7%)が、抱っこ補助具を使用していた。さらにスリング・ラップ・キャリアの3種の抱っこ補助具を使い分けている人は、そのうちの43人(28.1%)に認めた。
- 2) 平均使用開始時期はスリングが2.0ヶ月、ラップは1.6ヶ月、キャリアは2.1ヶ月と、全ての抱っこ補助具は生後2ヶ月前後で使用を開始していた。
- 3) スリングの使用経験者のうち、講習受講者は49.1%だったのに対し、非経験者で講習受講者は23.4%と、スリングの使用と講習受講には有意な関連を認めた($p=0.003$)。同様に、ラップの使用経験者で講習を受講している人は57.6%に対し、非経験者で講習受講者は28.7%と、有意な関連が認められた($p<0.001$)。一方でキャリアにはその関連はなかった。
- 4) 3種の抱っこ補助具使用経験者($n=43$)では、「愛おしいと思う」という項目において、ラップを使用している時に「とてもそう思う」と感じた割合は97.7%、スリング100%であり、キャリアの65%に比べて、有意にその比率が高かった($p<0.001$)。同様に、「守ってあげたいと思う」「成長が実感できる」「手足の温かさ・皮膚の状態が観察できる」「養育者としての自信がつく」「赤ちゃんに抱かれているようで安心できる」「穏やかになったと思う」「赤ちゃんに密着し、一体となっているように感じる」の7項目でも、ラップとスリングは、キャリアに比べて「とてもそう思う」の比率が有意に高かった($p=0.004$, $p=0.009$, $p=0.003$, $p=0.002$, $p<0.001$, $p<0.001$, $p<0.001$)。

IV 結論

多くの養育者は生後間もない時期からスリング・ラップ・キャリアを用いており、その使用種類が養育者の感覚を通じた認識にまで影響を与えている可能性が示唆された。助産師は、遅くとも1か月児健康診査までには、抱っこ補助具の特徴について情報提供し、適切で安全な使用ができるよう指導することが望まれる。